

令和5年度 学校評価シート（青梅市立第三中学校）

| | | ＜学校経営方針の重点＞ | | | | | | |
|--------------|---|--|--|--------|---|---|------------|---|
| | | 1 学力向上 | 2 健全育成（社会性） | 3 豊かな心 | 4 特別支援教育 | | | |
| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 評価 | 分析結果 教(教員アンケートによる到達度) 保(保護者アンケートによる到達度) | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | |
| | | | | | | | 評価 | コメント |
| 1 学力の向上 | 主体的・対話的で、深い学びをより引き出すために、「学びの姿勢の高まる授業づくり」を目指す。 | ①新しい視点に立った評価の在り方や新学習指導要領に対応した授業力向上を目指す。 | ①評価と指導の一体化を目指し、授業のめあてや目標を明確にし、振り返りを工夫する。生徒の自己評価をもとに授業改善を行う。 ②GIGA スクール構想を踏まえタブレットや電子黒板、大型ディスプレイを効果的に活用し、「わかる」「できる」授業を目指す。 | B | 教：63%、保：68% ①生徒アンケートの「授業ごとに目標が示されている」の回答が全教員で肯定傾向だった。 ②ICT 活用に要改善と回答した教員は18%で、教員の効果的な ICT 活用力が身に付いた。①②とも成果を実感する教員が41%、要改善の回答は20%を切っている。 | ①生徒が自らを振り返り適正に自己を評価できるよう、より明確でわかりやすい評価規準を検討する。 ②授業用指導支援ソフトの活用が進んだ。このソフトは、次年度以降は使用料金が発生するため、予算との関係になるが、ぜひとも導入したい。 総じて授業改善推進拠点校の研究が実を結んだと考える。 | A | ・ 解き方の手順などのヒントがあり、教師・生徒のキャッチボールがあることがすごく良い。 ・ 欠席生徒にも授業で使用したデータを届けられるのはすごいと思った。 ・ 教材作成等においても効率化が進んでいる。 |
| | 学習習慣を確立させ、基礎・基本を確実に定着させる。 | ②都の授業改善推進拠点校研究を受け、授業を見直し「わかる」「できる」授業を目指す。 授業と家庭学習に積極的に取り組む生徒を育てる。 | ①毎日の朝読書や家庭学習のための自学ノート、タブレットドリルなどを効果的に使い基礎学力の定着を図る。 ②定着に課題のある生徒について、B 評価を目指し、意欲的に取り組み、学びが深まる授業を推進する。 | B | 教：53%、保：68% ①生徒の主体的学習用のタブレットドリルは、十分な成果が得られなかった。 ②生徒のアンケートにおいては、授業が嫌いなわけではないが、教科が得意ではないという意識がある。授業では一定の理解はできるが、定着しないことが課題である。 | ①タブレットドリルの導入については、次年度は行わない方向で考えている。 ②学力定着には繰り返しが必要で、家庭学習が必須である。学習習慣の習得に向け、自学ノートの取組において学び方に対する積極的な指導を行い、成果を実感させる指導を今後も各教科・教員で工夫する。全員 B 評価以上を目指し、授業中の支援の工夫も行う。授業改善推進拠点校として指導力向上がうかがえた。 | A | ・ 一人一人が集中できる環境を作っていることや、手を挙げられない生徒の考えを視覚化できるのがよい。 ・丁寧な授業は分かったつもりになりがちだが、自学ノートの指導とセットになっているのがよい。 ・可能ならタブレットドリルと紙媒体の併用がよい。 ・家庭学習定着や学力向上は小学校との連携が必要。 ・書く機会が減ってしまうのは良いとは言えない。 ・板書を生徒が待つのを短縮できるのは効率がよい。 |
| 2 社会性の育成 | 将来、社会に出たときに通用する常識・良識を身に付けさせる。 | ①常識・良識を基盤とした生徒同士の望ましい人間関係を築く力を育てる。 | ①挨拶の日常的指導に加え、生徒会中心の「挨拶運動」の推進によって、自ら進んで挨拶ができる生徒を増やす取組を継続する。 ②「青梅三中版マナーテキスト」を活用しマナーを考え、セルフチェックさせ、マナー認定を行い、実践の場を与え実践力を育てる。 | B | 教：46%、保：74% ①取り組むことに、保護者の否定的意見はなかった。教員は成果に満足してはいないが、取組の継続を支持している。 ②取り組むことに、保護者の否定的意見はなかった。教員には成果の実感をもつ者がおらず、改善を要するという回答も他と比較して高かった。 | ①挨拶は、指導されてするよりも生徒の主体的な取組の中で醸成され習慣化していくことが望ましいので、成果を急がずじっくりと継続的に取り組むことが重要と考える。 ②教員から「青梅三中版マナーテキスト」の有効性に疑問の声が複数ある。マナーを教えるより、マナーについて考え判断できる力を育てる方策を検討する。 | A | ・ 三中生は挨拶をしてくれる印象がある。 ・ 恥ずかしいと思う生徒もいるのではないかと。ツンツンしているのが格好良いと思っていることもあるかも。 ・ 親子の会話不足も挨拶ができない一因ではないか。様々な理由があり、それを見抜く力も教員に必要。 ・ マナーは指導を受けて守るのでなくその必要性を考えさせるのが良い。マナーテキストは見直しが必要。 |
| | 善悪の判断をはじめ、規範意識を育む。 | ②自他を大切にすることを基盤とし、学校や地域に貢献できる生徒集団を育てる。 | ①毎月27日の「命の日」を交通ルールや自然災害を含め災害に対応する力を高めるための安全指導日とし、命を守る指導を充実させる。 ②地域学習を踏まえ、地域に愛着をもたせると共に地域に貢献できる人材を育成する。 | B | 教：47%、保：78% ①取り組むことに、保護者の否定的意見はなく、学校の指導についても肯定意見85%と高かった。教員の中には、要改善との回答が29%あった。 ②取り組むことに、保護者の否定的意見はなく、教員・保護者とも要改善回答は10%程度だった。 | ①引き続き取り組んでいくが、マンネリ化しないよう年ごとに重点を決め改善を加えながら実施していく。 ②1年から3年までの地域学習は、一定の成果が得られる取組として定着してきている。現状維持で満足せず、新たな取組にも挑戦していく必要があるかもしれない。 | A | ・ 毎月の安全指導はとても良い。 ・ 地域調査は、実施中の様子の保護者宛メール配信の効果も手伝い、帰宅後の保護者と生徒の会話促進につながり評価が上がったのではないかと。 ・ 地域行事に参加する生徒が増えると良い。 |
| 3 豊かな心の育成 | 将来にわたり勇気と希望を胸に生き抜く力を育む。 | ①集団の中で自分を生かすことにより自己有用感を育てる。 | 自分たちの力でより良い集団づくりに取り組めるように、生徒会活動を充実させる。また、各自の目標を明確化させるため、キャリアパスポートを活用する。 | B | 教：44%、保：68% 取り組むことについて保護者は高評価(83%)だった。学校の取り組み方も保護者の8割強が肯定的であるが、一部教員に要改善の意見がある。 | 自治力の育成は、指導と支援のバランスが重要で、生徒に考えさせながら、粘り強く育てていく。キャリアパスポートの有効活用には課題がある。3年間のキャリア教育を意識した取組に改善していく。 | A | ・ 集団での活動だけではなく、集団が苦手な生徒への対応や取組が今後は必要ではないかと。 ・ 部活動への所属人数が少なくなってくると、部活動を通した指導は難しくなってくるのではないかと。 |
| | 人としての振る舞いのできる人間性を育む。 | ②他者への感謝の気持ちをもてる生徒を育てる。 | ①部活動を通して、強い心と奉仕する心、感謝する心を育てる。 ②いじめを撲滅する心の育成を、道徳授業を含め、すべての教育活動に浸透させる。 | B | 教：59%、保：80% ①取り組むことに、保護者の否定回答はなく、指導にも高評価(80%)で、教員の中にも否定的回答はない。 ②取り組むことに保護者の否定回答はないが、学校の指導に保護者16%、教員12%が十分とは感じていない。 | ①部活動は、生徒の心の育成には成果があり、今後の地域移行の中でもこの側面は失わないようにしたい。 ②心の教育にゴールはなく、常によりよい取組を目指していく必要がある。道徳の授業だけでなく、特別活動等にも心の育成を位置付ける等検討が必要である。 | A | ・ キャリアプランを進学以降のところまで考えさせているところはすごく良い。 ・ 集団討論のような力（話し合いや表現など）を身に付けていく必要がある。 ・ 積極的な生徒はよいが消極的な生徒の指導が難しい。 |
| | 共生社会をより良き社会人として生きる力をつける。 | ③より広い視野で物事を見出し、主体的に考えることのできる生徒を育てる。 | ①様々な職種について理解を深めるため、専門学校の先生やハローワークの方、地域で実際に仕事に就いている方を講師に招き思いやり・勤労・責任を重んじる心を滋養する。 ②LGBT やグローバルな視点から、自分との差異を受容できる心を育てる取組を行う。今年度、LGBT に対応できる標準服を決定する。 | B | 教：57%、保：76% ①取り組むことに保護者の否定回答はなく、教員の中にも否定的回答はない。保護者の5%によりよい取組を望む回答があった。 ②取り組むことに保護者の否定回答はなく、教員の中にも否定的回答はない。保護者の5%、教員の12%によりよい取組を望む回答があった。 | ①自己管理・人間関係形成・課題対応・キャリアプランの4能力の育成を各実践に明確に位置付け、より意図的・計画的な取組にし、更に高い成果を目指す。 ②標準服の検討でLGBT の問題に対する教育が十分であるわけではなく、異文化教育についても現状で十分であるとは思わない。これらについて、積極的に考えさせる場を設定して、理解を深めさせる必要がある。 | A | ・ 成果が出にくいもの、見えにくいものでも周りに広げていくことが大切である。 ・ 保護者の協力を得て活動しているのは良い。 ・ 集める集団によって子供の務める役割が変わってくる。どんどん新しい生徒にスポットをあてるとよい。 ・ いじめ新聞のような配布物があるとよい。（大人の目に入るような） |
| 4 特別支援教育 | 個を尊重し、一人ひとりを大切に考えた教育的支援を実践する。 | ①教育相談的な取組の推進を図り、特別支援を必要とする生徒への支援を実施する。 | ①今年度から2名配置されたSCを効果的に活用し、1年生全員の面接を実施するとともに、SCとの連携の下で生徒理解に基づいた教育を進める。 ②交流面談や外部機関と連携したアンケートを活用し、個々の生徒理解に努める。 | B | 教：69%、保：75% ①取り組むことに保護者の否定回答はない。教員の53%は成果の実感をもつ反面、教員の6%と保護者の16%はよりよい取組を望んでいる。 ②取り組むことに保護者の否定回答はない。教員の35%は成果の実感をもつ反面、教員の6%と保護者の11%はよりよい取組を望んでいる。 | ①SCの活用が進み、連携も深まったが、SCの専門性の活用をさらに進め、全生徒のメンタルスキルやソーシャルスキルを高めることを検討している。 ②生徒の内面に関する専門的なアンケートを活用し、専門家による助言をもらう取組は、生徒理解の上に立った指導には欠かせないものとなっている。その成果を最大限指導に生かせるよう工夫していく。 | A | ・ 悩みも様々で、表出の仕方もさまざまであることが分かった。 ・ 不登校生徒の大半がいじめに起因していないことはよかった。原因がはっきりしない分、解決も難しい。 ・ SCは話せないことを話せる場として価値がある。 ・ アンケートの活用等丁寧に対応しているのはよいが、部会をより活性化し、学校としてどうするかも重要。 |
| 5 その他の重点 | 保護者・地域の信頼を得る。 | ①開かれた学校を目指し、説明責任や危機管理意識を高め、信頼される学校を目指す。 | ①HP、学校だより、学年だより、学級だより、mail 等、学校情報を発信し、保護者・地域と情報を共有する。 ②日頃から、事前に危険を察知し、先回りして教職員の危機管理意識を高める指導をしたり、丁寧な対応を心がけさせたりすることで保護者・地域の信頼を得る。 | B | 教：54%、保：74% ①取り組むことに保護者の否定回答はないが、成果の実感も教員24%、保護者16%と高くない。よりよい取組を望む教員6%、保護者5%だった。 ②取り組むことに保護者の否定回答はないが、成果の実感も教員18%、保護者11%と高くない。よりよい取組を望む教員12%、保護者11%だった。 | ①コロナ過が続き昨年度までは、情報の共有ができていくところがあつた。今後、さらに、分かりやすく、リアルタイムの情報を提供していく。 ②日頃からどうしても、危機意識が高まらない傾向であるが、事例や具体的な内容を通して、常に危機意識をもたせる。「まさか」ではなく「もしも」と思うような指導を行っていく。 | A | ・ 学校だより、学年だより、学級だよりなどもよいが、校外学習の様子をメール配信し、生徒と保護者の話題のネタを提供しているのは効果的であると思った。 |